

ベーシック事業の構造改革

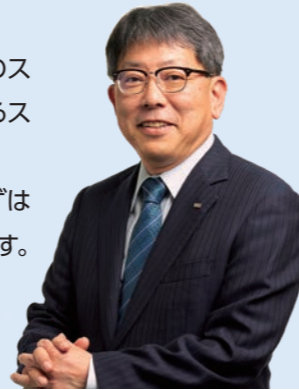
パフォーマンスポリマー&ケミカルズ事業は、「スペシャリティ化学の成長」と「地球環境への貢献」を両立するため、地球環境問題、モビリティ市場の変革、デジタル社会の進展等における課題解決に確実かつ迅速に貢献できるよう、強みを持つスペシャリティ事業の拡大・開発にスピード感をもって取り組みます。同時に、ベーシック事業を中心とした不採算事業については、諸課題を整理し、再編・縮小・撤退を確実に実行していきます。

2023年度はPCD(ポリカーボネートジオール)やコンポジット、高純度硝酸などのスペシャリティ事業の能力を拡大しました。2024年度はその成果を刈り取り、さらなるスペシャリティ化に向けた投資を行います。

一方、ベーシック事業については、2024年度から事業再編を本格化させます。まずは国内カプロラクタムの生産縮小・ナイロンポリマーのアジアでの生産最適化を行います。

次期中計でも、より強い事業となるべくトランスフォーメーションの歩みを着実に進め、企業価値向上に貢献する事業へと変容していきます。

執行役員
パフォーマンスポリマー&
ケミカルズ事業部長
野中 裕文



カプロラクタム・アンモニアに関する基礎データ



国内カプロラクタム生産縮小・アンモニア生産停止の進捗

カプロラクタムとナイロンポリマーは、中国企業による供給過剰が常態化すると見込んでいます。今後、需要が回復したとしても構造的に安定した収益は得られないと考えられることから、構造改革を加速します。

国内カプロラクタムについては、2024年5月の定期修理に合わせて生産量を4割程度縮小しました。これにより、副生される硫酸(肥料)の生産量も縮小しましたが、国内で求められる付加価値の高い大粒硫酸の生産比率を増やし、カプロラクタム縮小の影響を軽減することにより、ベーシック事業全体のポータリティ(損益の変動性)の改善を図ります。

カプロラクタムを原料とするナイロンポリマーも、2023年度から生産能力の最適化(日本からタイへ

共重合グレードの生産を移管)に着手し、国内の生産能力は53千トンから25千トンへと縮小しました。今後は生産品種の最適化によりグローバルでの収益力を向上させます。

経営へのインパクトが大きいアンモニアについては、2030年までの生産停止に向け、前倒しでの実施も視野に入れ、具体策の検討を進めています。2023年度においては、川下製品である硫酸、1,6-HDL(1,6-ヘキサジオール)、硝酸ソーダ等の事業撤退を実施しました。引き続き、構造改革の実現へ着実に取り組んでいきます。

海外拠点の構造改革

海外拠点についても、ベーシック事業の構造改革に取り組めます。

タイでは、カプロラクタムとナイロンポリマーの生産体制の見直しについて検討を開始しました。まずは、ナイロンポリマー事業を強化するため収益力の高い共重合グレードの生産比率を上げるとともに、2024年度中に次期中計に向けたさらなる検討を行います。

スペインでは、環境先進地域である欧州のニーズに対応した環境貢献型製品の開発を推進し、環境貢献型ビジネスへ参入することにより、新たな展開を図ります。カプロラクタムでは、生産工程のカーボンニュートラル化を推進します。ナイロンポリマーでは、欧州域内で高いシェアを持つ食品包装分野において、フィルムの端材を回収したPIR(Post Industrial



UBE CORPORATION EUROPE S.A.U.(スペイン)

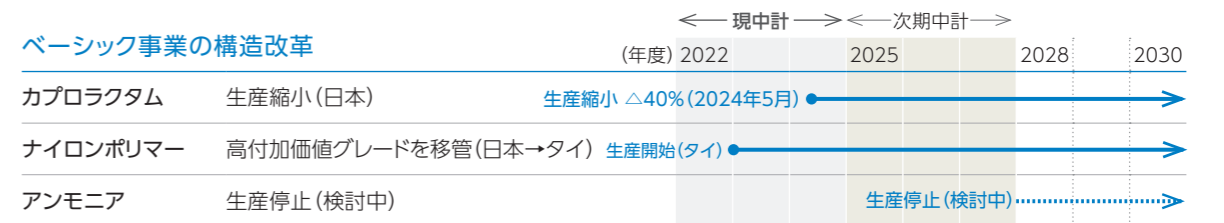
UBE Group (Thailand) 工場群(タイ)

Recycle)によるサーキュラーエコノミー事業に着手します。リサイクル樹脂としての販売に加え、自社コンポジット原料として自動車等のさまざまな用途へも展開します。欧州では肥料使用量の規制も進んでいるため、緩効性肥料である被覆硫酸のパイロットプラントの投資も行います。

さらなる構造改革による業績の安定化

次期中計で検討を深めますが、海外を含めたさらなるベーシック事業の構造改革を進めることで、

2030年には環境貢献型事業比率を6~7割程度にまで高め、営業利益の7割程度をスペシャリティ事業で得る、付加価値の高い製品群で構成された強靱な事業構造を目指します。同時にGHG排出削減やクリーンアンモニアの調達体制構築等の気候変動問題(カーボンニュートラル)への対応とともに、「サーキュラーエコノミー」や「ネイチャーポジティブ」に資する地球環境に優しい製品を展開することで、従来の汎用品事業とは異なる、環境対応型事業へのシフトに取り組めます。



日本: アンモニアの川下製品である硫酸、1,6-HDL、硝酸ソーダ等の事業撤退を2023年度に実施済み。
タイ: カプロラクタムとナイロンポリマーの生産体制を見直す。次期中計に向け2024年度中に詳細を検討。
スペイン: カプロラクタム生産のカーボンニュートラル化を推進し、環境対応による差異化を目指す。



カプロラクタムやアンモニアをはじめとし、さまざまな事業が複合的に関係する国内工場群(山口県宇部市)